

横浜 SSJ ニュース

第 29 号
2020 年 6 月 8 日発行

発行：横浜 SSJ（特定非営利活動法人 横浜市精神障がい者就労支援事業会）
〒232-0022 横浜市中区高根町 3-17-12 KS ビル 6 階
TEL 045-315-2622 FAX 045-315-2623
発行責任者：理事長 菊地 綾子
編集：横浜 SSJ 広報委員会
印刷：ワークショップメンバーズ

今できること

理事長 菊地 綾子

新型コロナウイルスによる肺炎の感染が世界的に広がってきています。特效薬がなく対処は「手洗いとマスクだけ」ということで、老いも若きも感染の恐怖にさらされています。神奈川県では初めての死者が出たこと、ダイヤモンド・プリンセス号とかいう 4000 名も乗ったクルーズ船が横浜港に横付けされたことで、早い段階から不安のつばに陥ってしまいました。

言うまでもなく、今最大の心配事は横浜 SSJ の事業所の利用者やスタッフに感染者が出て休所に追い込まれることです。非常事態宣言が出される前から事務局を中心に感染を防ぐ対策を講じてまいりました。幸いなことに宣言解除の現在まで感染者が出ることなく各事業所の運営を進めてくることができいております。

全国一斉休校、イベント中止、海外への渡航制限・入国制限、ライブハウスやスポーツジム等人が密集する場の利用自粛、公共交通機関でも感染者が出たり、北海道をはじめ観光地も危ないということで、経済と暮らしに重大な影響を与えています。特に、日頃から恵まれないところに置かれている立場の人が直撃を受け、生活保護の申請が 30% も増加していると報道されております。企業倒産も 200 社を数え、まだまだ増えてくるだろうとの予測です。経済を回さねばと自粛が解かれてきていますが、秋冬の集団感染第 2 波、3 波の懸念はほぼ確実のようです。

当会でも、北部・戸塚売店、駐車場が休業したことで、月 180 万円の減収への緊急融資申し込み、職員、メンバーの自宅待機要請で雇用調整助成金の申請等本来の福祉事業とは異質の企業努力(?)を強いられております。また、折角就労されたメンバーさんも自宅待機や雇止め職を失ってしまったと相談が来ております。作業の受注も止まってしまい、工賃が減収になってしまってもいます。

何よりも心配された自粛によるメンバーさんの孤立ですが、時差出勤や自宅待機、電話による安否確認といった約 2 カ月の非常事態対応によく耐えてくださりまして、徐々に自宅待機を解いている事業所へ元気な顔を見せてくださっているそうです。日頃の信頼関係が非常時に生かされて、それぞれの「場」の大切さをより実感された結果だと存じます。職員さんも時差出勤やテレワークなど 3 密を避ける方策を取るなど胃が痛くなるようなストレスを抱えながら何よりもメンバーさんたちの安心を担保する支援にあたっています。障がい者施設への公的対応や世間の関心は全く後回しという感がありますが、現場は「今できることをやり続ける」という基本を忘れずに日々努力を重ねております。ワクチンや特效薬ができるまで治まらないといわれているコロナ禍収束に向けて、先が見えない中ですが希望を失わず進んでいきたいと願います。

2019年度 横浜SSJ研修旅行

令和元年11月7日～8日にかけて千葉県南部(南房総)に研修旅行に行ってきました。幹事は私と職員の河原さんと野尻さんの3人で職員とメンバーを入れて27名で行ってきました。天王町駅前を9時に出発して東京湾アクアラインを通り、海ほたるで途中休憩を取り南房総へアクセスしました。



最初に行ったのは「はちみつ工房」でミツバチが集めた蜂の巣を回転させてハチミツを落とす器具を回す体験をしたのですが、私一人だけでハチミツを全部飛ばしてしまったのが反省点でした・・・。

昼食は食べ放題の浜焼き海鮮バーベキューでした。海鮮丼を始め、ハマグリやホタテなどの新鮮な海のものから肉類まで揃っており、浜焼きバーベキューが初めての経験だった人もいて、皆さん大満足の様子でした。その後は鴨川シーワールドへ行き、水族館でイルカのショーを楽しみました。イルカのオブジェの前で記念撮影もしています。宿である鴨川ホテル三日月に着いた時は夕方になっていました。鴨川ホテル三日月は、客室や大浴場から海が一望でき、とても居心地の良いホテルでした。



夜は宴会場で和食会席を食べ、希望者はカラオケを歌い、とても楽しい宴会でした。

2日目はビュッフェスタイルの朝食を楽しんだ後、ホテルを9時半に出発して ^{のこぎりやま} 鋸山へ行きました。山頂には「地獄のぞき」と言われる崖からせり出した展望台があり、そこまで登ったメンバーに聞くと、非日常を体験できるスリル満点の場所のようでした。その他にも日本一の大仏様があり、高さが31メートルと見ごたえ十分の観光スポットでした。

その後、金谷港にあるマーケット＆レストランの「ザ・フィッシュ」で海鮮料理を食べてお土産を買った後、東京湾フェリーにバスごと乗船し、船室や甲板で各自時間は短いですが船旅と記念撮影を楽しみ、久里浜港から高速道路を走って天王町駅前に帰着し解散となりました。

この旅行は千葉県が台風15号・19号で大きな被害を受け、出発が危ぶまれましたが、皆さまの努力と千葉県の復興により催行できました。私自身下手な幹事で申し訳なく思ったりもしましたが、無事に終える事ができました。

ワークショップメンバーズ利用者[研修旅行幹事] 小原直人

【研修旅行参加者の声】

はちみつ工房の見学が楽しかったです。トチの実が味のクセがなく、まるやかで美味しかったですと感じました。宴会の時に DA PUMP の USA を久保山の女子陣で歌って踊る事も成功出来てほっとしました。久保山にいる男性陣も盛り上がったので嬉しかったです。他の参加者にもほめられたので良い発表になったと思いました。温泉の景色も綺麗で楽しい旅行になったと安心しました。また行きたいです。

(久保山・戸塚事業所従業員 M・H)



横浜 SSJ 全体研修会 報告

横浜 SSJ では、年に 1 回、当事者、外部機関の職員や家族会の方々、また法人内の従業員・利用者や職員など幅広い方が参加出来るシンポジウムを開催しておりますが、今年度はシンポジウム形式ではなく、全体研修会となりました。午前の部・午後の部と 2 つのテーマについて講師の先生からお話をうかがい、その後質疑応答を行う形式になりました。2019 年度においては、2020 年 2 月 13 日、日本丸訓練センターにて開催しました。

午前の部は、社会福祉法人いきいき福祉会の成田すみれ先生をお招きし「家族の高齢化に対応しながら働くために」というテーマにご講演して頂きました。介護保険ガイドブックを元に、どういった方が介護保険を利用できるのか、どこで相談すればいいのか、介護保険の利用の仕方からサービスの内容など幅広い範囲で介護保険について学ぶことができました。



午後の部は、薬膳健康づくり研究会から栄養士・国際中医薬膳管理師の高橋美津枝先生をお招きし、「見直しましょう食生活」というテーマにご講演して頂きました。主食、主菜、副菜を基本とした食事のバランスについてや野菜を食べる為の工夫について学ぶことができました。質疑応答では現在の食生活についての相談やレシピについてなど、多くの方が質問されていました。

どちらも 100 名以上の方のご参加を賜り、大変盛況となりました。今回のお話を伺って自らの生活を見直し、また家族のことを考える良い機会が得られました。本日の講演が、いつまでも健康で働くことができる助けになれば幸いです。講師の皆様、ご参加頂いた皆様ありがとうございました。

(ワークショップメンバーズ職員 河原雄一)

～参加者の感想～

介護保険の研修については、約 1 年ぐらい前に親のことで、介護保険の手続きをしましたので、思い返していました。その時にとりあえずケアプラに行って、必要書類とどのように手続きすればよいか教えてもらいましたので、みなさんも分からないことがありましたらとりあえずケアプラに連絡し行けば何とかなります。

私は以前介護職の仕事の経験がありケアプラの事は知っていましたので、すぐに連絡できましたが、今回の研修でどうすれば良いか分からない方々もいると思うので、大変貴重な研修をして頂けたと思います。知っていると知らないのでは、動き方が変わると思いました。今回貰った介護保険ガイドブックは大変詳しく載っているので、また介護保険の申請する際は、活用させて頂きたいと思います。

「見直しましょう食生活」は、今まで主食、主菜、副菜はあまり考えず食べていました。研修でみなさんが、食を考えた食べ方をしていることにびっくりしました。私の場合、朝食は食べたり食べなかったり、しているからです。でも野菜は、出来るだけ、以前から取るように考えていました。食生活を見直す良いきっかけになりました。できるだけ主食、主菜、副菜があるようにしたいと思いました。

(横浜SSJ 北部事業所従業員 ペンネーム 北部事業所)



この研修会を終えて、家族が高齢になったら家族と協力して、心配な事や健康について、家族と話し合っていくことが必要だと思いました。もし家族に介護が必要になったら役所に相談してこれからのプランを決めていくことがいいと思います。使いたいことを申請するのが、まず1歩だと思います。1人1人の家族の支えが大事だと思いました。

食生活は、朝・昼・夕の1日3食をとった方がエネルギーになると習いました。僕は、朝食が苦手なのですが、先生の話聞いて、少し口に入れた方が良くわかりました。また、1日の食事量は、逆三角形かひし形が望ましいと習いました。僕は、研修会の次の日から朝食をとっています。体の調子がとても良くなりました。今回の研修会は、とても良かったです。

(久保山・戸塚事業所従業員 加藤寛和)

自分にとっては、とてもタメになるお話でした。食生活の大切さを学びました。自分は食生活については、日頃、苦労してます。お話しは今後の参考にしたいです。次回のシンポジウムでもまた役に立つお話があったら、聞いてみたいです。親亡き後も不安になりますが、職員さんと上手く相談しながらやっていきたいです。

(久保山・戸塚事業所従業員 日高昭則)

今まで「高齢者」になった両親を想像したことが無かった為、あまり親の老後の暮らしについて深く考えたことがありませんでした。ですが、今回の講演に参加したことによって、親の老後について考える良いきっかけになったと思っています。また、今後介護保険で利用できるサービスも増えていく可能性もあると感じたので、適時情報収集をして介護保険についての知識を身に付けていき、親の老後に備えたいと思います。

(ジョブアシスト横浜職員 吉川真祐子)

勤怠システムの導入にあたって ～横浜SSJの新しい試み～

勤怠システムを導入した目的は、当会で働く職員・従業員約110名の給与計算を正確に行うことです。手計算による勤務時間の集計は、計上漏れが散見されていたので、勤務時間の集計作業を正しく行うことと、計算事務の効率化と省力化を期待して導入しました。

当会では、従前紙製のタイムカードに印字を行い、毎月それを集計して勤務時間を確認していましたが、ICカードの打刻とインターネット上で行う勤怠管理は、リアルタイムに出退勤の情報を確認することができます。そして即時に勤務実績の集計を行いますので、「今月私はどのくらい残業したかな」といったことも本人のみならず、施設長も事務局も確認することが

できます。職員は自らの働き方を改めて見直す機会になったかもしれません。システム上では勤務時間の集計だけでなく、有給休暇、残業、直行直帰の申請・承認を行うことができ、紙の申請書を作成する手間がなくなりました。有給休暇の残日数が自動計算されるシステムもとても便利です。

一方導入に際して、苦労した面もたくさんあります。

当会には約11の事業所があり、それぞれ常勤、パート、当事者の従業員で勤務時間帯、休憩時間が異なり、1つの事業所内でも「早番」「遅番」「通し」など多ければ6種類もの勤務形態があり、更に研修やミーティングで通常と異なる勤務が不定期であります。初期設定は業者担当者が行ってくれますが、設定を理解して運用や実情に合うようメンテナンスは業者に相談しながら事務局で行います。

紙のタイムカードでもつい打刻を忘れてしまったり、出勤と退勤を間違えて打刻したりすることはありますが、手書きのメモで適宜修正を行うことができます。ICカードで打刻等の誤りがあれば、システム上で修正する必要がある、修正を誤ると勤怠の集計ができないため、施設長には正確に記録ができているか確認する今までにない仕事が増えてしまいました。その他残業、早出、直行直帰等の申請も、システム上で決められたとおりに行わないと正確に集計ができません。思ったとおりに勤務時間が集計されず、正しい申請方法と確認に時間がかかりました。

導入から約半年が経過しました。システムの特性を正しく理解して使用できればとても便利なソフトなので、もうしばらく試行錯誤しながら、当初の目的である正確で迅速な給与計算事務を目指していきます。



～勤怠システムを使用している従業員・職員の感想～

「勤怠管理について」

とても便利だと思います。仕事が終わった後、十五日締めの際に時間の計算をしなくて済むのは、とても精神的にも楽です。ただ、一回家にサイフごと忘れてしまったので、そのようなときにどうするか、またはそのようなことがないようにするにはどうするかが課題だと思いました。カバンにパスケースをくくりつけて入れて持ち運ぶ等すれば良いのかと思いました。

(横浜 SSJ 久保山・戸塚事業所従業員 Y・K)

「勤怠管理システムの変化について」

最初の頃はタイムカードを打ち忘れていたりしていましたが、慣れてくるに従い、そういったケースは減ってきました。これは私だけでなく従業員の皆さん全員に言えることだと思います。タッチするだけなので私個人としては、非常に便利になったと思います。押し忘れる可能性があるとしたら、早番、遅番問わず帰りではなくて、来た時なのですがこれは自覚しとかなないと、昔みたいにタイムカードが従業員控室にあるわけではないので気を付けなければいけない点です。タイムカードみたいに押したのか押してないのか目で確認が取れないので、その辺は気を付けなければいけません。そのあたりは、少々不便になりました(ただし、スタッフが後で確認してくれるので打刻修正をすれば良いです)。後は 出ボタンと 退ボタンを間違えてしまう事、個人的にはありました。その辺りは、面倒になったと感じたことも事実です。

後、変化としてはタイムカード、カードの両方を押していたのですが、カードシステムだけになったので時間が短縮されて便利です。とにかく慣れてしまえばタイムカードからカードのシステムになりましたが、特に不便は感じません。以上です。

(横浜 SSJ 北部事業所従業員 Y.A)

「勤怠システムの導入について」

勤怠システムは従来のタイムカードから、専用のカードで「ピッ」と行うシステムに変わり、慣れない時はタイムカードと専用のカードで「ピッ」と行うのと両方を、北部ではしていました。タイムカード式の時は、職場にいる時に打刻した時間がタイムカードを見るだけで、打刻したかが分かりました。勤怠システムが専用カードリーダーに変わり、打刻したかどうか、自分で分からなくなっていますが、打刻をミスった時など専用の届け出をするようになりました。半月ごと目安でいつの出勤で打刻し忘れやシフト変更をしたのかが分かるように施設長がプリントアウトしてくれるようになり、勤怠システム導入時に感じていた不安もなくなりました。タイムカードの時は職員のサインを貰っていましたが、その面倒臭さが無くなりました。お陰様で、現在はタイムカードより便利に時短出来、使えるようになりました。

(横浜 SSJ 北部事業所当事者職員 竹 伸夫)

昨年の夏、勤怠管理システムが導入され、PC 上で自分の労働時間を正確に把握できるようになりました。これまでの紙媒体の勤怠管理では、手作業が多く、時間もかかっていました。今では残業時間を含めた就労時間や休暇取得状況、申請・承認状態も確認し易くなりました。書類のやり取りの時間、紙自体のコストも削減されていると思います。まだ不慣れな面があり、就業規則を読み返してルールを覚えたりしている所です。これを機会に健康的な働き方について再考し、業務改善に取り組んでいきたいと思っています。

(ワークショップメンバーズ職員 内田智子)

就労移行支援事業所 ジョブアシスト横浜& 就労継続支援B型事業所 ワークショップメンバーズ・すきっぷ

～保土ヶ谷駅前公園清掃実習紹介～

保土ヶ谷駅前公園清掃ではメンバーさん2名と職員1名で毎週決まった曜日に清掃活動を行っています。この公園は、鉄棒やブランコ、滑り台などがあり、家族連れで小さな子供が遊んでいる姿も良く見られます。そんなのどかな雰囲気のパークですが、残念な事にタバコの吸い殻やアルコール飲料の空き缶、食べ残しの容器などが散乱している事も多く、景観を損ねてしまっています。



そこで横浜市から委託を受けた当事業所が、公園内のゴミや落ち葉などを拾い集めて、元の綺麗な公園に戻すお手伝いをしている訳です。作業中に公園を利用している方から、「ご苦労さま」と声をかけていただく事もあり、気持ち良く清掃活動を行う事ができています。

先日は近隣の小学校から取材の申し込みがあり、作業をしている所にインタビューに来てくれました。小学校低学年の生徒さんから、「なんでこういう活動をしているのですか?」「何曜日に行っているんですか?」「何人で作業をしているのですか?」「どんなゴミが多いですか?」などなど積極的に質問をしてくれました。

今回公園清掃を通じて地域と関わるという、貴重な体験ができました。これからも地域に住んでいる方々が気持ちよく公園を利用できるように、清掃活動を続けていきたいと思っています。

(ワークショップメンバーズ職員 野尻哲哉)



～カフェガーデンさらの歩み～

カフェガーデンさらは1996年（平成8年）、神奈川県衛生部が、新設される総合医療会館に事業所を開設し、精神障害者の就労モデル事業を実施するとの意向を示したことによって1997年4月より精神障害者福祉的就労の場として「喫茶兎夢」をオープン。その2年後「カフェガーデン sala」と改称し、実質的な運営を県精連が行うこととなり、シフォンケーキ、クッキーなどのオリジナル製菓の販売をするなど、経営の向上に力を注がれました。

このような中、14年の実績のある「カフェガーデンさら」の事業移譲のお申し出を受け、雇用の実績のある事業を絶やすことなく継続し、就労継続支援A型事業で最低賃金を保証するなど先駆的な実践と支援の幅を広げたい思いから、2011年4月、障害者自立支援法就労継続支援A型事業として運営を開始致しました。

「働きたい」という思いを持つ方々を対象に雇用契約を結び、就労機会の場を提供するとともに調理、接客活動中心に就労に向けた職業訓練を行ってきました。カフェガーデンさらは、就労継続支援A型から就労継続支援B型、法人独自事業の実習場所として形を変えながら、多くの利用者・関係機関と連携をとり、働く場を守り発展させていくことを目指してこの8年間、運営をして参りました。

接客需要の低下や、支援は十分でも生産性が追いつかない等困難な状況を抱え、支援と経営のバランスをとることの難しさを学ぶ良い機会となりましたが、2020年2月末日を持ちまして閉店とさせていただきます。

障害、性別、年齢、性格等の違いを尊重し、様々な力を持った人が活躍できる場所、強みに着目したその人にしかない能力を引き出せる場所、自分らしくいることが出来る場所として、皆様の温かいご支援の中、運営してられましたことを心から厚く御礼申し上げます。

（ワークショップメンバーズ職員 林 真由美）



さらでの実習をメインに活動していた利用者さんから、
さらでの思い出をうかがいました。

～笑顔になれる場所～

カフェガーデンさら、神奈川県総合医療会館 1F。
さらは、カフェガーデンさらが正式名称だ。カウンター席の全面がガラス越しになっている店内から、街路樹が見渡せるところから、カフェガーデンの名が付いたのだろう。営業時間は、10 時～15 時 30 分。(ラストオーダー15 時)

昨年の夏は、回数券のスタンプがいっぱいになったら、アイスコーヒーもしくはアイ스티ー一杯プレゼントを実施した。当日、使わなくても、日付を記入し、後日使えるように回数券を持ち帰っていただく事も出来た。冷たいドリンクが苦手なことわる方もいらっしゃったがお客様に喜んでもらえた。

通常ランチの他に、スペシャルランチがある。お弁当箱に、メイン2つ、副菜、漬け物ごはん、みそ汁、コーヒー付き。プラスチックのお弁当箱に、メインが1つバージョンもあって、この場合は、お菓子を付けることになっている。無事に、スペシャルランチをお届けすることが出来るとホッとする瞬間である。後は、お弁当の引き下げと片付けも忘れずに。

パーティーシフトもある。親睦会のご予約を承っている。パーティーのお持てなし。飲み物は、アルコール、ノンアルコール。そして、私達、従業員も正装だ。接客は、いつもより丁寧に。ソフトドリンク。パーティー料理は、お寿司、サンドイッチ、からあげ、ビーフン、サラダ、人気のローストビーフ、デザート等、内容はもりだくさん。

実は、私は、パーティーメニューの看板を書くのに力を入れていて、白いボードに書くのだが、パーティーも回を重ねると、季節のイラストを余白に添えることにしている。看板を見たお客様の反応が良かったりするとニンマリしてしまう(笑)。

パーティーは、夜が多くて、夕方に仕事が始まり、準備して、パーティー本番が終わると片付けをし、遅くても 22 時までには、会館を出なきゃいけない。家に帰ると 23 時過ぎることがあるが、お客様に楽しんでもいただけると充実感でいっぱいになる。

普段のランチタイムは、11 時 30 分～13 時 30 分。ランチタイム中は、お食時に、フリードリンク(ホットのみ)が付いている。



ランチの目玉は、日替わりの本日のランチ、限定ランチ(5食)だ。本日のランチは、一週間分のメニューがわかるようになっていてメニュー表をお持ち帰りいただける。それから、パスタ、カレー、ピラフ、グラタン、オムライスの定番メニューがある。こちらは、営業時間内なら、いつでも注文出来る。ドリンクメニューは、コーヒー、紅茶、オレンジジュース、ココアなど。

12時のチャイムが鳴ると、店が混み始める合図。回数券は、5食分で3千円。1食700円のランチが回数券だと一食に付き、100円お得。接客で、私は、お客様がご来店されたら。「いらっしゃいませ」に、「こんにちは」をセットで言う事にしている。接客に笑顔は基本だ、時々忙しさを理由に、固くなってしまう時があるが、お客様に喜んでもらうサービス、働きやすい空間作りをモットーにしている。

さらの仕事は、早番、遅番、調理のシフト。早番は、外の仕事が開店準備、中の仕事のごはんとみそ汁作りだ。勤務時間は、9時30分～14時。遅番は、早番と一緒に、ランチタイム営業だ。レジ、配膳、ごはんとみそ汁の盛り付けのポジションがある。後は、閉店後の片付けがある。11時30分～16時。調理は、調理補助。メイン、副菜作り、9時～12時30分。

さらの皆、それぞれの役割を頑張って、楽しく働かせてもらっていました。

(ワークショップメンバーズ利用者 横溝ちひろ)

就労継続支援 A 型事業所 横浜 SSJ 北部事業所

「3年目に入って」

SSJ 北部事業所に入所して2年になり、3年目になりました。最初は、前にいた施設とはことなる作業で、戸惑うことも多く会葬者様が使う休憩室の清掃作業は初めてのことで、自分にできるのだろうか大きな不安を持っていましたが、スタッフの方や先輩たちの指導を受けながら、休憩室、湯茶室、4つのホール、売店と作業をすることができるようになりました。

私の作業をするときに思うのは、「自分の為ではなく他者のために作業をします。」と自分自身の基礎として仕事をしています。「自分本意の仕事で限界がありますが、他者のための仕事なら限界はない」と言われたことがありました。それを聞いて、私は今までの行動に自分中心のものがなかったかなど反省し、今では他者のために仕事ができるように努力しています。

これからも私は、この言葉やいろんな人たちの力を借りて仕事を頑張っていきたいと思います。

(横浜 SSJ 北部事業所従業員 P.N 模型屋)

就労継続支援 A 型事業所 久保山・戸塚事業所

バーベキュー (9 月 11 日)

昨年度に引き続き、レクリエーションとしてバーベキューを開催しました。昨年とは異なり、当日は晴天にも恵まれ、風も穏やかでした。これまでは、食材の購入や調理は現地で行っていましたが、今年度は阪東橋事務所にある調理室にて、食材の下ごしらえをしていたので、ゆっくり食事を楽しむことができました。スペアリブや焼きそば、じゃがバターなどバリエーションに富んだメニューで、お腹もいっぱいで大満足でした。



防災体験ツアー (10 月 10 日)



横浜市民防災センターの防災体験ツアーに行きました。時間は 60 分の基礎ツアーでした。内容は、「ぐらがくる」という短い映画を観た後、体験を行いました。

地震の揺れの体験では、関東大震災と阪神淡路大震災の 2 つの揺れを体験しました。地震によって揺れ方が違うこと、地震の起こる時間帯によって火災など 2 次的災害の被害の大きさなどにも違いが

出ることを、学ぶことができました。

消火器を使用した消火訓練では、毎年、久保山斎場と戸塚斎場で防災訓練を行っているので、消火器の扱いには皆さん慣れていてとても上手でした。

防災体験ツアーを通して、災害はいつどこで起きても不思議ではないこと、いざ起きたときに落ち着いて行動するためにも日頃から備えをしておくことが大切だと学ぶことができたのではないかと思います。



(久保山・戸塚事業所職員 小澤大夢)

従業員ミーティング

11 月の従業員ミーティングは、10 月の職員研修で行われた「業務上の安全管理」をテーマにみんなで話し合いを行いました。

久保山・戸塚それぞれの職場で普段働いている中で、危険な事や仕事中に発生しそうな注意点などを上げてもらい、改めて安全管理の意識を高めました。

今年の繁忙期は 12/25～2/10 でした。例年、久保山・戸塚共に火葬件数は増えますが、今年は久保山が特例でさらに 15 時半枠 2 件を増設して、試みる事になりました。

従業員の勤務体制を整え、事前に準備を行ない、職員・従業員一同で繁忙期を乗り切ることが出来ました。

(久保山・戸塚事業所職員 澁川典子)

メンバー・従業員の「声・こえ・コエ」

今回のテーマは、「人・ひと・ヒト」です。毎回テーマだけをお伝えして、ご自身でイメージを膨らませてもらっています。いろいろな視点や捉え方から書いていただきました。原稿を書いていただいたみなさま、ありがとうございました。

「人が背負うもの」

近頃、老化が進んだせいか、よく母方の祖父の事を思い出すことがある。もう 10 年以上前に、齢 90 過ぎで亡くなった祖父であるが、戦争で 2 度徴兵されている経験があった。

1 度目の招集では、日華事変(日中戦争)に赴いた時のことを、幼稚園の頃の自分に話してくれたことがあった。祖父は衛生兵であった為か、前線に投入されることもあまりなかったようで、休暇の日には、蘇州に戦友たちと観光に出かけて、その時に撮った記念写真を見せてくれたりもした。

2 度目の招集は、太平洋戦争で、中国の雲南省からラオスを経て、当時は建前上、中立国の立場をとっていたサイアム王国(現在のタイ王国)に行軍した。新潟県人の祖父には、南国の様々な果物は、大変に印象的だったようで、特にドリアンのおいしさと強烈な臭いは、歳を取っても忘れられないと言っていた。また、映画「戦場にかける橋」で知られる、タイと当時のビルマ国境を跨ぐ形で敷設された泰緬鉄道の事も語ってくれた記憶がある。

しかし、当時は何の疑問も持たなかったのだが、それ以降の話を祖父が一切語っていないことに、ある時気が付いてしまった。だけれども、そのことに触れてはいけないということは、何とはなしに察してはいた。

結局、そのことを祖母や伯父・伯母といった少しは事情を知っていそうな人達に聞くことができたのは、祖父の通夜・葬式の時であった。しかしながら、その時期の事、さらに終戦後、どの様に故郷へ復員したのかを誰も知らなかった。

ここから先はあくまでも推測に過ぎないが、祖父の配属されていた新潟・新発田の旧陸軍歩兵第 16 連隊は、ビルマ戦線においては、かの悪名高きインパール作戦に参加していた。衛生兵だった祖父は、最前線に配置されずに済んだのかもしれないが、後方の野戦病院辺りで、人が見てはいけないようなものを見てしまったのではないか。

それは、自分の子供や孫にも語りできないような事だったのだろうか。祖父は、自らの口を閉ざし、一生「背負うもの」になってしまったのではないか。祖父の「背負うもの」は何だったのだろうか。

(ワークショップメンバーズ利用者 石井直哉)

「人」

人とは見つめ合う力
 人とはあふれ出る力
 昼も夜も人は一人であるかのよう
 人は人として善悪を裁ける人はいない
 人は裏切りの決断で傷つけあっている
 生きずまると大人は嘘つきになる
 そのうち喜びされもさび付き鉄の様な心
 強くあろうとする心は鉄の心
 冷たく丈夫だ
 さあ昼も夜も悲しむ事は無い
 人とは生きる事を悩めるたった一人の動物だから
 (ワークショップメンバーズ利用者 PN アクトン武)



「じぶん」

始めに僕を生んでくれた母、育ててくれた母、今も生活させてくれている地球に感謝ありがとうございます。僕は僕を最低の人と思います。真面目なふりをして他人の悪口、陰口、妬み、僻み僕は、動物で例えればコウモリです。空を飛べば鳥、哺乳類と言えそうです。生活自体僕は納得してません。収入は、生活保護、障害者年金、久保山事業所のお給料です。勘の良い方ならお分かりだと思いますが、久保山を退職しても収入の面では変わりません。

ただ僕は、今多くの人に助けられている事を、この先何年かしたら、あの頃幸せだったと思うかな？僕は政治経済には、疎いですが、重度身体障がい者2名を国会に送りました。その後何か変わるかわかりませんが、僕は今夜も眠れるかなの方が大事です。話が上手くまとまらなくてすみませんでした。

以上

(久保山・戸塚事業所従業員 泉 俊一)

「久保山の人たちから学んだこと」

自分は発達障害が原因で人付き合いが苦手なのですが、久保山事業所の人々の助けにより少しずつそれも変わりつつあります。

以前は難しかったコミュニケーションの問題は、職員から障害特性を考えた人との付き合い方を指導していただき、尊敬と誠意をもって人と接するという事を学びました。

従業員の間でも、特に長年働いている方から仕事の上で助けてもらったこと、気にかけてもらったことが多くあり、互いに助け合う精神の大切さが分かりました。

このことを教えてくれた久保山事業所の人たちに心から感謝しています。

(久保山・戸塚事業所従業員 加藤俊輝)

人とは悩む生き物である、得も言われぬ課題を書かねばならぬ、私にとって人とは時に究極の厄介事であり、時として至高の救いてになりえる

中々込み入った時期にこの文章を書いている、ならば書くことが出来るのは就職について、この話を頂いた際、所外実習についてカフェガーデンさらが年度末をもって終了それも含めて今後を考えねばならずそれに当たって、指針を立てるいい機会でもあった、そこで指南を頂いた方々に受け



た事を活かす、案件を頂き、絶好の機会でもあった、逆に言ってしまうとそれ程まで煮え切れぬ、己という者を厄介に感じる程の、、侘しさ、その中でも念頭にあるのは自分に変化を与えた人と泣き別れた事でもあった、それ程に影響を受けてしまった、その人にどう答えるのかが自分に、とっての目標でありこの就職はその一つの手段でしか無かった、その考え方も悩み物だが結果を得てしまえばコチラの物、それはそれで問題は多いが、、人生とはそういう物

目先の課題はこの文章を書くように、この恐ろしく忙しい時期に依頼した厄介者だが、これもいい機会ではある

気持ちの整理も、片足すら他者に促されて初めて、気づく事が出来るなら不承不承であれ、感謝も出来ようが、恨み事は言うまい

ならば今後この文章を読まれた方は安易に文章作成を引き受けない事をお勧めさせて頂く自分自身と向き合うのは骨が折れる、胸の内に留めておくのが堅実だろう、自身のポリシーは己の支えであり、ひけらかす物ではないのだから

他人の価値観ほど聞けぬ話しもない、お忘れなきよう

(ワークショップメンバーズ利用者[すきっぷ]OB PN ji-ko.kawahara.com)

「人」

僕が横浜 SSJ に入ってから半年、いろいろな人と出会って、仕事を教えてもらったり、今では一緒に旅行に行ったりする友達も出来ました。

一時期は引きこもって孤独な思いをしたこともあったので、人の優しさに触れて、こんなに充実した日々を送ることができ、周りの人達に感謝しています。

やはり人は一人では生きていけないので、お互い支え合うことが大切なんだなと思いました。

(横浜 SSJ 北部事業所従業員 H.S)

会費納入 報告

2019 年 9 月から 2020 年 3 月までの会費の状況です。

・個人会員 1 名 ・団体会員 6 団体

いつもありがとうございます。精神保健福祉の向上のため、大切にさせていただきます。

“人財”育成 ～横浜 SSJ 職員研修～

当会は、今年度より職員研修に力を入れ、取り組んでおります。私たちの仕事は利用者に福祉サービスを提供する対人援助の専門業務です。職員の成長がサービスの質の向上に繋がっていきます。また、“組織は人”、“人財”などという言葉が組織経営の視点においても“人”は重要な経営課題であります。

そこで、これまで各施設から 1 名ずつ合計 4 名で行っていた研修委員会を、今年度から外部の識者、各施設長、法人本部職員などの方々を構成メンバーにした研修企画委員会を立ち上げ、様々な観点から当会および職員に必要なものは何なのかを話し合い、研修を企画実施する形に強化しました。

積極的に外部講師を招き、アセスメントや面接等支援技術などの専門的な研修や、人権やマナー、当会についてなどといった基礎的研修を講義形式、グループワーク形式にて月 1 回行うよう計画立てています。座学で知識を学び、グループワークで職員各々が考え、それらを同じグループ内で互いにフィードバックしながら、職員間での交流を図っています。

まだまだ不十分なところはありますが、今後は階層別など様々な形で研修事業を企画し、各職員にとって当会で働いてよかったと感じられてもらえ、生き活きと働き続けられる法人にしていきたいと思います。また職員の成長により、法人組織としてさらに成熟し、利用している利用者の方々により良いサービスを提供していきたいと思います。最後に今年度の職員研修に参加している職員 2 名の感想をお伝えしたいと思います。

(横浜 SSJ 北部事業所職員[研修企画委員] 麻生政志)

～法人内研修を受けて～

今年度より法人内で月 1 回研修を受けることが出来るようになりました。法人内研修は同じ SSJ の仲間がたくさんいるため、情報共有や交流が出来、外部の研修よりも支援の中でより一層、実際に起こりうる事例の取り上げや緊張せずグループワークを受けることができるなど有意義なものになっています。今後もよりよい支援の実現のために研修内容を生かして仕事に励んでいきたいと思います。

(横浜 SSJ 北部事業所職員 成田智博)

研修の中で、特に印象に残っているのは「精神保健福祉の歴史」です。精神障害は医療・衛生の分野から様々な努力があり、福祉という「生活者」としてサービスを提供される存在として支持が広がってきたことを改めて認識しました。ただ、精神保健福祉はおよそ 100 年前からの比較的新しい概念であり、まだ世間に認識が広がっていない部分もあるためこれからも改善を訴えなければならないものだと思います。

(ワークショップメンバーズ職員 粕谷悠斗)

《編集後記》

新型コロナウイルスにより、緊急事態宣言も出され、誰も体験したことのない事態になりました。働き方や生活に大きな影響が出ています。また、夏の暑さも感じるようになり、引き続き手洗いというがいに気をつけ体調管理をしていきましょう。(おぎひろ)

SSJ職員研修会

